

## ハンフォードの思い出 / せたな町姉妹都市交流推進協議会 会長 鵜入 泰宏

私にとってハンフォードへの訪問旅行は2度目になります。

最初の訪問は16年前の1995年3月末でした。

相互訪問が始まって最初の訪問団だったため、熱烈歓迎を受け、パーティーが多く、ホストファミリーと過ごす時間は少なかったと思います。

その後、長い間姉妹都市交流に携わっていたため、多くの知人友人が出来ました。

私はハンフォード市民との交流のほかに、今回の訪問中にその人たちと会うことと、20年前の姉妹都市調印のためハンフォードに訪れた代表団が記念樹として植樹をしたヒドウンバレー公園の桜の木の存在を確認することを第1の目的として出発のバスに乗り込みました。

楽しい仲間と和気あいあいの旅で、長い飛行機の旅もそれほど苦にはなりませんでした。

花のサンフランシスコも短い滞在でしたが、雰囲気をも十分に堪能し、約4時間のバス移動で目的地のハンフォード市に着きました。

ハンフォード市では恒例の消防車の先導でホストファミリーの待つ会場まで移動し歓迎を受けました。

私のホストファミリーはハンフォード姉妹都市協議会の委員長アリス・ロバーツさん。

瀬高の清原校長先生と共にお世話になりました。

アリスさんは高校生のホストファミリーであるテリーさんと共にはるばるサンフランシスコまで出迎えに来ていただき、本当に感謝しています。

ハンフォード市内観光では、数人の姉妹都市メンバーが常時付き添い案内をしてくれました。

何処までも広い胡桃やアーモンド農場、興味深いピスタチオ工場の見学、その他新聞社、シビックセンター、博物館、パンプキン観光農場の見学、カジノ体験など内容の濃い市内観光でした。

ホストファミリーとの自由時間ではブルーエンジェルス航空ショーとヨセミテ国立公園の大自然をそれぞれ1日ずつ楽しみました。

特に印象に残ったのはヨセミテ国立公園でした。

気持ちのいいカリフォルニアの青い空、森林がかもし出す空気が気持ちをやわらげてくれます。雄大な自然、そして広大な渓谷と巨大なむき出しの岩石は息を呑む光景でした。

アリスさんが英語でいろいろと説明してくれた内容は、数%しか理解が出来ませんでしたが、外国に来ていることをしみじみとかみしめていました。

最終地のロサンゼルス観光もガイドの三浦さんの話を聞いたため1日観光が3倍くらいの情報を得たような気持ちになりました。



海外旅行は何度か経験がありますが、なかなかなじめないのが、靴を履いたまま家に入ること。シャワールームの使いにくいこと。毎日パン系の料理、甘すぎる食べ物。食生活によるものと思われる不健康そうに太った人が多いことでしょうか。

見習いたいこともたくさんあります。(個人の見解によりますが・・・)

国歌が流れると全員起立をして胸に手を当て、大きな声で歌うのを見ると愛国心が強いのがわかります。

アメリカ人は知らない人にも友好的に気軽に声をかけます。

エレベーターに乗ったときには「何階？」と聞かれボタンを押してくれました。

また、少し触れただけで(Excuse me)と言います。



人が横断歩道を歩いているとき、日本と違って車を止め、歩行者を優先させる。

現地の添乗員三浦さんのことばを借りると写真に写るときの笑顔がいい。

また、ボランティアに対する考え方が我々以上に進んでいるように見えます。

現地の日本人の話では「アメリカ人はボランティアをしすぎるために、働かない人が多くなって困ってしまう。」と嘆いていましたが・・・。

全般的に見習いたいことが多いようです。



以上約1週間の短い滞在でしたが、当初の目的も達成できました。(残念ながら桜の木はハンフォードの暑さのために消えていました。今後何か記念になるものを考えていきたいです。) また、ハンフォード市姉妹都市メンバーあたたかいもてなし、そして良い旅行仲間に出会えたことがこの旅行を何よりも充実なものにしてくれました。

一緒に旅をした瀬棚商業高校の生徒も、何かを感じ取り、心の糧になったものと思います。

2年後再びハンフォード市への訪問団が結成することになると思いますが、より多くのせたな町民が参加できるような体制を作っていかなければならないと思います。

最後にこの充実した旅行が出来たのは、せたな町姉妹都市交流推進協議会を支えてくれるせたな町のみなさん、町の理事者、そして妻の理解があつてこそ。

感謝します。